臨	床	調	杳	個	人	票
шин	$\nu \sim$	H/HJ	₽.	11111	/	ᅏ

	新規		更新
_		_	

301 黄斑ジストロフィー

■ 患者情報

保険情報	保険者番号		被保険者記号	
	被保険者番号		被保険者 個人単位枝番	
	資格取得 年月日	西暦 年	. 月	日 *以降、数字は 右詰めで記入
氏名	セイ		メイ	
八石	姓		名	
い台の発得氏を	セイ		メイ	
以前の登録氏名	姓		名	
	郵便番号			
	都道府県			
住所	市区町村			
	丁目番地等			
生年月日	西暦	年 月	日	
性別	□ 男性	□ 女性		
出生地	都道府県			
	市区町村			

■ 基本情報

	□ 1. あり	□ 2.なし	□ 3. 不明
	発症者続柄		
	□ 1.父 □ 2. †	□ 3.子	□ 4. 同胞(男性)
家族歴	□ 5. 同胞(女性) [□ 6. 祖父(父方)	□ 7.祖母(父方)
	□ 8. 祖父(母方) [□ 9. 祖母(母方)	□ 10.いとこ
	□ 11. その他 *11 を選択の	り場合、以下に記入	
	続柄		
発症時期	西暦 年	月	
社会保障			
介護認定	□ 1. 要介護	□ 2. 要支援	□ 3.なし
要介護度	□ 1 □ 2	<u></u> 3	4 5
生活状況			
移動の程度	□ 1.歩き回るのに問題はな	☆い □ 2.いくられ	か問題がある
12331 - 122	□ 3. 寝たきりである		
身の回りの管理	□ 1. 洗面や着替えに問題に	はない 2.いくられ	か問題がある
	□ 3. 自分でできない		
ふだんの活動	□ 1. 問題はない	□ 2.いくら	か問題がある
かたんり 仕勤	□ 3.行うことができない		
痛み/不快感	□ 1.ない [□ 2. 中程度ある	□ 3.ひどい
不安/ふさぎ込み	□ 1.問題はない	□ 2. 中程度	
1 4/ 2-0 0 200	□ 3. ひどく不安あるいはふ	っさぎ込んでいる	
手帳取得状況	T		
身体障害者手帳	□ 1.なし		
为仲华古石于欧	□ 2.あり(等級 □ 1級	□ 2級 □ 3級 □ 4	級 🗌 5級 📗 6級)
療育手帳	□ 1.なし □	2. あり	
精神障害者 保健福祉手帳	□ 1.なし		
(障害者手帳)	□ 2.あり(等級 □ 1級	□ 2級 □ 3級)	
人工呼吸器等装着者認	定基準に該当		
□ 1. する	□ 2. しない	3.7	不明

■ 診断基準に関する事項

<診断の	カテゴ	ıı\
く まぶいバノノ	117 1	ヮーっ

□ Definite 1: Aを満たし、かつBのうち3項目以	上を満たし、Dの	鑑別すべき疾患を降	余外できる		
□ Definite 2: Bの4項目を全て満たし、Dの鑑別すべき疾患を除外できる。かつ、現在視力が良好でも、 黄斑部萎縮の進行により将来視力が低下する可能性が高い。					
□ Definite 3:検査所見の特徴からそれぞれの病型 該当する病型には☑を記入する。	心診断の要件を?	満たす。			
□ 1)卵黄状黄斑ジストロフィー(ベスト病)	2)Star	rgardt病			
□ 3)オカルト黄斑ジストロフィー □ 4)錐	性がストロフィー	ー、および錐体-杆体	本ジストロフィー		
□ 5) X連鎖性(X染色体)若年網膜分離症	□ 6)中心	性輪紋状脈絡膜ジ	ストロフィー		
□ Definite 4:Probableであるが、明らかな家族歴	≛ がある				
□ Probable 1: Bのうち2項目以上を満たし、Dの	鑑別すべき疾患	を除外できる			
□ Probable 2: A項目あるいはB項目の1項目以上	があり、Dの鑑別	すべき疾患を除外	できる		
□ いずれにも該当しない					
A. 症状					
両眼視力低下(急性の視力低下は除外する)*	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
*付記 視力低下の程度は問わない。					
B. 検査所見					
① 眼底写真:両眼黄斑部の対称性の萎縮性病変、 黄斑分離、あるいは沈着物	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
② フルオレセイン蛍光眼底造影または 眼底自発蛍光:病巣に一致した異常蛍光	□ 1. 該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
③ 電気生理学的検討	全視野 ERG(とくに錐体系)の反応減弱				
② 电X(工程于中列模型)	□ 多局所および黄斑局所 ERG の反応減弱				
	□ EOGのL/D比の低下				
④ 光干渉断層計 (OCT): 病巣部における 網膜の形態異常	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
(更新) 新規で診断が確定したものについてはフルオレセイン蛍	光眼底造影と電気生	理学的検討を除いても	よい。		
C. 家族歷					
家族歴あり	1.該当	2. 非該当	3. 不明		

D. 鑑別診断			
以下の疾病を鑑別し、全て除外できる。 除外できた疾病には ☑ を記入する。	除外可 📗	2. 除外不可	□ 3. 不明
□ 薬物による視力低下(クロロキン、ハイドロオキシクロロ	1キン、ティオ	リダジン、タモ	キシフェン等)
□ 外傷性(あるいは近視性)網脈絡膜萎縮			
□ 後天性網脈絡膜疾患(中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)、急	性带状潜在性絲	罔膜外層症(AZOO	OR)、MEWDS 等)
□ 先天性コロボーマ、先天性黄斑低形成 □ 加齢黄斑	変性萎縮型	□ 続発性	黄斑変性
<特異的な所見から診断が可能なもの> 1) 卵黄状黄斑ジストロフィー(ベスト病) <診断の要件>			
B-① (眼底写真) とB-② (蛍光眼底造影あるいは眼底自発 蛍光) とB-③ (電気生理学的検討) で以下の特徴を満たす	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-① 眼底写真(必須): 卵黄様病巣、偽蓄膿様病巣、いり卵様病巣、萎縮病巣を認める	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-② フルオレセイン蛍光眼底造影:卵黄様物質は ブロックによる低蛍光を示す。眼底自発蛍光:卵黄様物質 は過蛍光を、萎縮病巣は低蛍光を示す。	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-③ 電気生理学的検討 (必須): EOG は L/D 比が低下する	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-④ OCT:卵黄様黄斑物質は網膜下に貯留している	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
2) Stargardt 病 <診断の要件>			
B-① (眼底写真) とB-② (蛍光眼底造影あるいは眼底自発 蛍光) で以下の特徴を満たす	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-① 眼底写真(必須): 典型的な症例では、黄斑部の 萎縮病巣と、黄斑から周囲に広がる黄色斑を伴う	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-② フルオレセイン蛍光眼底造影(必須): dark choroid (背景蛍光が暗く見える)が見られる。黄斑萎縮に伴う過蛍光所見、あるいは黄色斑に伴う異常蛍光が見られる。眼底自発蛍光:背景蛍光全体が増強する。黄斑の萎縮病巣は低蛍光、黄色斑は過蛍光を示す。また、perpapillary sparing (視神経乳頭周囲の網膜および色素上皮が温存される所見)も診断に有用である。	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-③ 電気生理学的検討:全視野 ERG、EOG は様々である。 黄斑部局所 ERG では反応減弱が見られる。	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-④ OCT: 黄斑部はエリプソイドゾーン (Ellipsoid zone: EZ) の消失と網膜の菲薄化が見られる	□ 1. 該当	2. 非該当	□ 3. 不明

3) オカルト黄斑ジストロフィー <診断の要件> B-① (眼底写真)、B-② (蛍光眼底造影)、 □ 1.該当 □ 2.非該当 3. 不明 B-③ (電気生理学的検討) のうち全ての特徴を満たす B-① 眼底写真(必須): 黄斑部に視力低下を説明できる □ 1.該当 3. 不明 2. 非該当 検眼鏡的な異常がない B-② フルオレセイン蛍光眼底造影:黄斑部に視力低下 3. 不明 1. 該当 2. 非該当 を説明できる異常がない B-③ 電気生理学的検討(必須): 錐体と杆体を分離した 全視野網膜電図は正常。 黄斑局所 ERG の反応が減弱、 | 1. 該当 | 2. 非該当 | 3. 不明 または局所 ERG で中心部の反応が減弱。 B-④ OCT: 黄斑部においてインターデジテーションゾーン (Interdigitation zone: IZ) の消失、EZ の不明瞭化が □ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明 見られる。進行すると EZ ラインの分断が見られるように なり、外顆粒層も菲薄化する。 4) 錐体ジストロフィー、および錐体-杆体ジストロフィー <診断の要件> B-① (眼底写真) あるいはB-③ (電気生理学的検討) の ERG □ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明 を必須とし、①~④のうち3つ以上の特徴を満たす B-① 眼底写真(必須):ほとんど異常がないもの、 黄斑部に萎縮病巣(典型病巣は標的黄斑病巣、網膜色素上皮 □ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明 のびまん性萎縮(色素沈着を伴うことあり)などさまざま である B-② フルオレセイン蛍光眼底造影:萎縮に一致して window defect による過蛍光、脈絡毛細血管板萎縮による 1. 該当 2. 非該当 3. 不明 低蛍光などが見られる。 眼底自発蛍光:萎縮部位に一致して 低蛍光が見られる。病変の境界部に輪状過蛍光が見られる ことがある。 B-③ 電気生理学的検討(必須): ERG で錐体系 ERG の 反応減弱。杆体系 ERG の振幅低下が見られることがある □ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明 (錐体-杆体ジストロフィー) が、錐体系 ERG の異常の ほうが高度である。 B-④ OCT: IZ は消失する。EZ の反射は減弱する。 □ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明 網膜外層の菲薄化が見られる。 5) X 連鎖性(X 染色体) 若年網膜分離症 <診断の要件> B-① (眼底写真) あるいはB-③ (電気生理学的検討) の □ 1.該当 2. 非該当 3. 不明 ERG とB-④ (OCT) でいずれも以下の特徴を満たす。

B-① 眼底写真(必須): 黄斑に中心窩分離を呈する。 進行例では網膜色素上皮の萎縮を伴う非定型的な変性病巣

などを伴う。

になる。一部では周辺部網膜に網膜分離症や網膜反射の異常

□ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明

B-② フルオレセイン蛍光眼底造影: 黄斑分離は蛍光漏出を示さない。眼底自発蛍光: 中心窩嚢胞に一致した花弁状 過蛍光、黄斑部萎縮病変における過蛍光、低蛍光等、多彩な 所見を示す。	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-③ 電気生理学的検討(必須): Flash ERG ではb波は 著しく減弱し、一般に negative type を示す。	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-④ OCT (必須): 典型例では中心窩周囲に網膜分離所見が認められるが、黄斑部の視細胞層が萎縮、菲薄化する症例も見られる。	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
6) 中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィー <診断の要件>			
B-① (眼底写真) とB-② (蛍光眼底造影) で以下の特徴を 満たす	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-① 眼底写真(必須):地図状萎縮病巣内には脈絡膜中 大血管が透見される典型病巣を認める。初期には黄斑 あるいは傍黄斑に顆粒状に網膜色素上皮の萎縮病巣が出現 する。進行すると網膜色素上皮萎縮病巣内に地図状萎縮病巣 が出現し、拡大し、やがて地図状萎縮病巣内には脈絡膜中 大血管が透見される典型病巣になる。	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-② フルオレセイン蛍光眼底造影:初期例では病変に一致してwindow defect、進行例では境界鮮明な低蛍光の中に脈絡膜中大血管像が見られる。眼底自発蛍光(必須): 黄斑部は脈絡膜萎縮により境界鮮明な低蛍光、その辺縁にはリング状の過蛍光が見られる。	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
B-③ 電気生理学的検討: ERG、EOG は多くの場合正常である	□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明
B-④ OCT:網膜外層、網膜色素上皮の菲薄化が見られる	□ 1. 該当	2. 非該当	□ 3. 不明
■ 重症度分類に関する事項			
良好な方の眼の矯正視力が 0.3 未満	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
■ 症状の概要、経過、特記すべき事項など *500 文字以内			

■ 人工呼吸器に関する事項(使用者のみ記入)

使用の有無	□ 1. あり			
開始時期	西暦	手 月 月		
離脱の見込み	□ 1. あり	2.なし		
種類	□ 1. 気管切開孔を介した	上人工呼吸器		
	□ 2. 鼻マスク又は顔マス	くっを介した人工呼吸	岩	
施行状況	□ 1. 間欠的施行	□ 2. 夜間に継続的	に施行	
) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	□ 3. 一日中施行	□ 4. 現在は未施行	2	
	食事	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助
	古大フトないと問の扱利	□ 自立	□ 軽度介助	
	車椅子とベッド間の移動	□ 部分介助	□ 全介助	
	整容	□ 自立	□ 部分介助/不可	能
	トイレ動作	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助
生活状況	入浴	□ 自立	□ 部分介助/不可	能
生色状化	歩行	□ 自立	□ 軽度介助	
	<i>≫</i> 11	□ 部分介助	□ 全介助	
	階段昇降	□ 自立	□ 部分介助	□ 不能
	着替え	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助
	排便コントロール	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助
	排尿コントロール	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助

医療機関名	
指定医番号	
医療機関所在地	
電話番号	*ハイフンを除き、左詰めで記入
医師の氏名	
記載年月日	西暦 日 月 日
診断年月日	西暦

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても 差し支えありません。(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近6か月間で最も悪い 状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、 「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」(平成 26 年 11 月 12 日健発 1112 第 1 号健康局長通知) を参照の上、 ご記入ください。
- ・診断年月日欄には、本臨床調査個人票に記載された内容を診断した日を記載してください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。

■ 行政記載欄

担当自治体			
受理日	西暦	年 月 日	
公費負担者番号			
認定結果	認定	□ 不認定	
研究同意の有無	□ 有	□ 無	
受給者番号			
有効期限	西暦	年 月 日	
階層区分	生活保護	□ 低所得 I □ 低所得 I □ 一般所得 I	
1916年2月	□一般所得Ⅱ	□ 上位所得 □ その他	
軽症者登録	□ 有	□ 無	
	保険者番号	被保険者記号	
保険情報	被保険者番号	被保険者 個人単位枝番	
	資格取得 年月日	西暦 日 年 日 月 日	